

大阪市立 築港中学校



所在地 〒552-0021 港区築港1丁目2番41号
TEL 06-6575-3092
FAX 06-6575-2463
校長名 西本 晃(にしもと あきら)



学校の紹介・校長メッセージ

昭和53(1978)年に港区で5番目の中学校として開校し、44年目を迎える伝統ある学校です。正門にある立派な桜と、色とりどりのプランターの花が来校者を迎えてくれます。玄関を入ると広々としたピロティがあり、校舎は老朽化してきていますが清掃活動は行き届き、美しさを保っています。敷地は広く、校舎を抜けると芝生広場・体育館・プール・格技室・テニスコートがあります。校区には、海遊館をはじめ天保山や赤レンガ倉庫(クラシックカーミュージアム)など、魅力ある築港ベイエリアが広がり、教育環境としてとても充実しています。海遊館の協力のもと研究プロジェクトチームを立ち上げて交流学習会を行っており、その研究成果は全国大会において優秀賞を受賞しました。

校訓

「自主」「協調」「責任」

学校教育目標

変化の激しい社会を生き抜く力と対応する力をもった生徒を育成する。

めざす生徒像

総合的な人間力を身に付けた生徒

- 自ら考え、学び、創造する生徒
- お互いに違いを認め合い、助け合う生徒
- 協調性をもって社会と関わり生きていける生徒

運営に関する計画

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

【学校の年度目標】

- 校内調査において「学校へ行くのが楽しい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
- 校内調査において「時間を守り、遅刻をしない」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
- 校内調査において「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える割合を80%以上にする。
- 校内調査において「友だちの気持ちを考え、友だちを大切にしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える割合を90%以上にする。
- 校内調査において、「規則正しい生活を心がけている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
- 校内調査において、「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
- 校内調査において「先生はいじめや校内暴力などのない学校づくりに取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える保護者の割合を80%以上にする。
- 校内調査において「子どもは友だちを大切に、人への思いやりを持っている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える保護者の割合を90%以上にする。

【全市共通目標】

- 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

【学校の年度目標】

- 校内調査において、「授業が分かりやすく楽しい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。
- 校内調査において、「先生は授業内容・方法を工夫している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。
- 校内調査において、「授業でわからないところについて先生に質問しやすい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。
- 校内調査において、「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
- 校内調査において、「本を読む機会が増えた」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。
- 校内調査において、「自分の頑張ったところを認めてくれる先生が多い」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。

【全市共通目標】

- チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団と比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団と比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において体力合計点の平均の記録を男女とも令和元年度の大阪市の平均より上回る。

●令和元年度 全国学力・学習状況調査の結果から明らかになった現状

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症による臨時休業の影響等のため実施しておりません。

平均正答率 (%)		
国語	数学	英語
68	59	48

【成果と課題】

国語は大阪市や全国との差が着実に縮まっている。数学は大阪市の結果を上回り、全国との差が縮まった。英語では、大阪市・全国とは若干差がついていた。その後の、チャレンジテスト、統一テストの結果から推察して、教科によって若干の違いはあるが大阪市・大阪府を上回るか、着実に差を縮めている。

経年比較をしていく中で、協働的な学習方法や ICT 機器の効果的な活用、授業時数の確保、学力補充など取り組みの成果が出てきたといえる。しかし、無解答率については高く、最後まで考える力、やり抜く力が必要である。国語「漢字力」、数学「計算力」、英語「単語力」の三つの力の育成を進め、基礎的・基本的な内容の確実な定着を、今後も3年間という時間をかけて図っていく。

このことは、本校が取り組んでいる「①習熟度別少人数授業の充実」「②ICT 機器を活用し、生徒が興味関心を持ち、わかりやすい授業の実践」「③学習ソフト導入による放課後学習会や家庭学習の充実」「④各種検定試験への取り組み」等の効果が表れてきた結果である。今後も小規模校であるが故の強みを活かし、創意工夫を重ね、学力向上に努める。

【今後に向けて】

1. 時間割を工夫して、全教科で分割ならびに習熟度別の少人数授業を弾力的に行い、さらに個に応じたきめ細かい授業を継続する。
2. ICT機器(クローズドブック等)を各教科の授業にさらに活用するため授業研究を続ける。また、学習ソフト活用による家庭学習の充実と習慣化を図る。
3. 言語活動の充実を図るため、今後も全校で朝読書に取り組む。また、言語力や表現力を高めるため、ICT 機器を活用も含め話し合いや意見発表の活動を充実させる。
4. 漢字検定・英語検定等にさらに積極的に取り組み、保護者と連携して家庭学習習慣の育成を図る。
5. 教員間の情報共有を図り、指導力向上のための校内研修・研究授業を行う。
6. 地域の特色を生かした多様な体験活動を通して、豊かな感性や情操を育み、人間としてのあり方や生き方を考えさせる。

●令和元年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から明らかになった現状

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症による臨時休業の影響等のため実施しておりません。

項目	握力 (kg)	上体起こし (回数)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回数)	20mシャトルラン (回数)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)	体力合計点
男子	29.93	27.93	44.64	50.14	89.36	7.87	191.57	20.71	42.36
女子	24.29	23.67	49.19	49.38	60.29	8.49	169.71	16.29	54.76

【取り組み】

- ICT機器(クローズドブック等)を使って、生徒が自らの運動をフィードバックできる機会を積極的に設けた。
- 体育の授業では毎時間補強運動として、力強い運動ができるためのもの、柔軟性を高めるもの、からだをうまく扱えるようにするためのものをバランスよく導入した。

【成果】

- シャトルラン・50m走の数値が男女とも市・全国平均を大きく上回った。女子は、さらに、反復横とび・ハンドボール投げでも、大阪市・全国平均を大きく上回った。

【課題】

- 持久力とスピードがついてきたので、それを活かした身体の使い方を教えていく。
- 体力の合計点が市・全国平均を大きく上回っているため、そのことを自信にさせて、より主体的に運動やスポーツを行いたいと思えるようにはたらきかける。

本校では、基礎的・基本的な内容の確実な定着と「分かる喜び、できる楽しみを実感できる授業」をめざした、授業の工夫・改善に取り組んでいる。具体的には生徒一人一人の理解度に対応した授業やICT機器を活用した授業方法などの授業研究にも積極的に取り組んでいる。

これからの教育が課題研究やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど、生徒の能動的な学習を取り込んだ授業を推進することで、自ら課題を見つけ、それを解決する能動的な学習に向かうことで、自立的な学習態度を身につける「生きる力」を育む教育へと取り組みを展開する。

また、本校の生徒の特徴としては授業や各行事、部活動等の活動の場面において、見本や例を求め、型どりにこなすことが最優先となっており、自分で何かを生み出す力や自らの考えを表現する力、学びをつなげていく習慣が身に付いていない。

そこで、「授業デザインを探究」し、「思考の可視化」を図り、「学びの協働」を推進するという3つの視点を通じて、「教科の学び」(内容)と「学び方の学び」(方法)をもたらす2層構造型の授業実践を行う。まなボードや実物投影機は、「課題⇒予測⇒まとめ⇒振り返り」のサイクルをもった授業実践を推進し、教員も生徒も考えを伝えるための手軽なツールとして利用することができ、小グループや学級の協働を促進し活性化することができる。実践を通じて、「自ら学び、自ら鍛え、みんなと生きる生徒」の育成をめざす。



修学旅行(ラフティング)



ICT(タブレット)まなボード活用授業(数学)



習熟度別のプリントを自分で印刷し学習する生徒(英語)



海遊館部 カキ礁移動作業

●卒業後の主な進路【過去3年間】

卒業生 H30年度 57名、R元年度 44名、R2年度 37名 進路先の人数は過去3年間の累計で表示

公立高校等

旭(2)、生野、泉尾工(3)、市岡(8)、今宮工(4)、扇町総合(3)、OBF(3)、教育センター附属、柴島(4)、高知海洋、高津(2)、港南造形、咲くやこの花、清水谷(2)、水都国際(2)、住吉、住吉商(4)、成城(全、定)、大正白稜(4)、中央、西(2)、西成(6)、西野田工(5)、寝屋川、農芸、花園、東(3)、布施北(5)、松原、港(4)、都島工、夕陽丘、淀商(2)

私立高校等

藍野、あべの翔学、上宮、追手門学院大手前、大阪借星(4)、大阪学芸(4)、大阪女学院、大阪成蹊女子(2)、大阪電通大(2)、大阪桐蔭、鹿島学園、関大第一、関大北陽、近大附、金蘭会(3)、興園(4)、好文学園(3)、神戸野田(2)、堺リベラル、四條畷学園、四天王寺東、常翔学園(4)、大商大塚、プール、明浄、桃山学院、緑涼

専修学校等

大阪情報コンピュータ(2)、クラーク高等学院、KTC あおぞら、第一学院、東朋、ルネサンス大阪、YMCA 学院、就職

学校名等の後ろの()内は2名以上の進学者等の人数を表示しています。